

# まほるば



## 病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第64号

2006年10月発行

## 【コラム】患者様から学ぶ

医療は年々、あるものは日々進歩していきます。病気には、治るものと治らないもの、治せるものと治せないものがあります。その際、何時の時点で治らなかったのか、治せなかったのかということはありません。残念ながら今の時点でも治らないもの、治せないものはたくさんあります。

病気を治すのは、患者様自身の気力と体力、それに環境が大きく関与します。私たち医療従事者は、患者様から病気を学び、治癒に向けてのお手伝いをさせていただいているのです。患者様から視診や聴診、打診、触診を通しては当然のこと、日常生活ま

で含めたより多くの、しかも正しい情報を提供していただくことにより治療に努力しています。言葉を換えれば、病気を治すには、患者様と医療従事者の二人三脚が必要ということです。

私たち医療従事者は、患者様の生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行いますので、治療に必要な正しい情報の提供をお願いします。



院長 五十嵐勝朗

## “ボランティア”って何？



私は、以前、国立病院に入院していました。そして命を救われました。突然の発病、それは現代病とも言われるストレス障害でした。自分でも気が付かないうちに進行し、

ついにはダウンという結果です。自分の今後についての不安が見る見るうちに広がり、これからどうなるのか不安でした。でも入院・治療をし、退院ということが決まり、本当に健康ということのありがたさがひしひしと感じました。その時、ある方から「ボランティアをやってみないか？」とお話がありました。社会復帰の第一歩としてやることを決意し、実行することにしました。毎日、玄関脇に立ち、来院する方の顔を見ると、不安又不安と

の感じです。挨拶は大きな声で「お早うございます。」「今日は!」との声掛け、初診の方と笑顔での挨拶、これが基本です。私は、いつも自分も病院の職員代行との気持ちで接しています。一日一日を充実した日として送ることができれば非常に嬉しく思います。帰り際の皆様の声「ありがとう。」と言われると本当に良かったと思い、逆に患者様、その他の方々に感謝です。“ボランティア”って型のないものですが、気持ちと気持ちのふれあい一つひとつがそうなのだ実感します。

これからも、他の病院にはないきめの細い思いやりを持って行きたいと思います。エプロン姿を見たら何でも言って下さい。声を掛けて下さい。“ボランティア”って最高です。

野口 洋之

★当院では、ボランティアを募集しています。詳細は看護部長室まで!

## 3か月間だけの幻想的な街 —奈良美智+graf「A to Z」展—

7月29日(土)~10月22日(日)のほぼ3か月間に渡り、弘前市吉野町の吉井酒造煉瓦倉庫で、弘前市出身のアーティスト“奈良美智”氏と大阪のクリエイターグループ“graf”の共同制作による展覧会「A to Z」が開催されました。

公共の美術館ではなく、個人所有のこの倉庫での展覧会は、平成14年と17年に続き今年が3回目、そして最後となります。奈良氏の想いも、企画・運営に関わったボランティアの方々の想いもぎっしり詰まった3か月間だけの「街」。AからZまでの26件の小屋などが建ち並び、それぞれを訪問していくうちに不思議な路地に迷い込んだ気分になります。子供の目線で見ると、そこは本当に実在する街のようで、「おじゃまします」と言っ小屋のドアをそっと開けたりしていました。(ただ、2階の作品や1階の小屋の2階部分など、車椅子で

はどうしても見られない所があり、展覧会の主旨として仕方がないとは思いつつも、とても残念に思いました。)

会期中は、一夜限りの「Midnight A to Z」や、市内16の菓子店で奈良作品の焼印を捺したオリジナル菓子が購入できる「ならお菓子プロジェクト」等、たくさんのイベントもありました。作品をじっくり見てじっくり感じた後、テラスで一息入れて、真っ赤なお鼻のイヌのオブジェと一緒に写真を撮られた方はたくさんいらっしゃったのではないのでしょうか。どんな形でも、またこの弘前の街で奈良作品に会いたいと思いました。



庶務係 工藤 真淑

## “地域医療連携室だより” 発刊

毎朝、電車の窓からみる岩木山の美しい姿に一日の元気をもらって通勤しています。裾野の景色も、人々の日々の努力によって春の緑から稔りの赤や黄金色に変わりました。

当院の“地域医療連携室”も今年2月に誕生してから牛歩の歩みを続けていますが、皆様のご支援とご協力により、先般「地域医療連携室だより」を発刊いたしました。心よくご寄稿いただきました方々に、この紙面をお借りして感謝申し上げます。是非とも多くの

方々にお読みいただき、皆様からのご意見やご感想、情報などを次号に生かしていきたいと考えています。

また、この連携室だよりが、地域の医療機関の先生方との理解を深める一助となるよう連携室一同力を尽くしていきます。どうぞよろしくお祈りします。

地域医療連携係主任 山内 佳子



## 病院機能評価に係るラウンド・勉強会



の支援により、事前ラウンドと勉強会を実施しました。

今回の対象は、第3領域「療養環境と患者サービス」で、病院玄関を始めに、病棟、外来等を見ていただきました。まず驚いたことは、エスアールエルの中井氏と古田氏が、実に的確に問題点を指摘し、改善方法を具体的に示してくれたことです。もちろん、

当院は、来年5月に「病院機能評価」を受審する予定ですが、その準備の一つとして、10月5～6日、株式会社エスアールエルの

高く評価できる点はちゃんと褒めてくれました。次に驚いたことは、当院には改善すべき実には多くの問題があるということです。病院機能評価は、あくまでも患者様の視点での病院機能の評価するものです。我々は、どうも医療を行う側の理論で多くを考えてしまいがちです。物品の配置にしても、我々が働きやすいようにということが優先されがちです。ここでもキーワードはやはり「意識改革」です。

今回指摘された、あるいはこれから指摘されるであろう問題点は、その改善に向けて我々職員全員が一丸となって話し合いながら取り組むことが重要です。そしてその先に結果があるはずですよ。

臨床研究部長 泉井 亮

## 第54回生 戴帽式

10月18日（水）、午前10時30分から第54回生39名の「戴帽式」を行いました。

ナースキャップは、看護職が聖職であることの象徴として使われてきた歴史がありますが、ナースキャップが感染の原因の一つになるという根拠から、最近ではナースキャップを廃止する施設が増えていきます。

そんな中、ナースキャップを身に付けることが、これからの長い看護師生活のうち最初で最後になる者もいると思います。戴帽生によるナイチンゲール

誓詞や誓いの言葉には、これからの看護職を目指す者の強い意志が伺えました。

さわやかな秋晴れの中で、戴帽を受けた学生はもちろん、参加された保護者の方の感激もひとしおのように見受けられました。



教員 花田 聖子

## 風の子保育園運動会（院内保育所）

9月10日（日）、看護学校体育館で、「風の子保育園運動会」を行いました。

たくさん集まったご父兄の見守る中、元気あふれる園児32名の入場行進、そして力強い選手宣誓で競技が始まりました。

ヨチヨチ歩きで人見知りして立ち止まる一歳児のたんぼ組、少し照れながらも友達と仲良く走るちゅうりっぷ組、「一番になろう」と一生懸命頑張る四歳以上児のゆり・ひまわり・ばら組、それぞれゴールを目指して走る姿に会場から暖かい声援と拍手が起きました。かわいいてんとう虫を背負って走るたんぼ組の障害物競走。剣と銃を持って格好良くボウケンジャーに変身したり、親子でゴルフを楽しむちゅうりっぷ組の競技。ゆり・ひまわり・ばら組ならではのなわとびやボール投げをしながら進む「たまごっちゲーム」。親子でクイズをしながらの「脳内サブリ」など、みんな

な汗だくで頑張りました。

遠い秋田県や岩手県から駆け付けてくれた祖父母も、孫の見ている前で折り紙で栗を折って頑張ってくれました。完成した栗の下に集合しての大合唱は、とても心温まる光景でした。

最後まで頑張ってくれた園児達は、手作りメダルと大きなプレゼントをもらって満面の笑みでしたが、親子で楽しく触れ合いながら走ったり踊ったりしている時の笑顔が一番の笑顔だったと思います。

終了後も父母の皆様には、毎年、後片付けにご協力いただきましてありがとうございます。本当にお疲れ様でした。

園長 諏訪 栄子



# 外来診療一覽

## ◆外来医師診療一覽表 (2006年10月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
内科		人見博康	小沢一浩	人見博康	小沢一浩	小沢一浩
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
消化器科		佐藤年信 中畑元	佐藤年信 中畑元	佐藤年信 中畑元	中畑元 (藤田均)	佐藤年信 中畑元
小児科		杉本和彦 佐藤啓	野村由美子 大谷勝記	杉本和彦 佐藤啓	大谷勝記 野村由美子	野村由美子 杉本和彦
外科		山中祐治 坂本義之	高橋克郎 三上勝也	横山昌樹 山中祐治	横山昌樹 高橋克郎	三上勝也 坂本義之
整形外科	午前	柿崎寛 田中涼 上里大子	柿崎寛 工藤整	柳澤道朗 田中大	柳澤道朗 又は 田中大 奈良岡琢哉	柿崎寛 柳澤道朗
	午後	/	/	/	/	柿崎寛
脳神経外科		/	/	木村正英	/	/
皮膚科	午前	鳴海博美 大嶋英恵	大嶋英恵 鳴海博美	鳴海博美	鳴海博美 大嶋英恵	大嶋英恵 鳴海博美
	午後	/	●手術	鳴海博美	●手術	大嶋英恵
泌尿器科		橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘	橋本安弘
産婦人科		真鍋麻美 工藤香里	佐藤春夫 工藤香里	真鍋麻美 工藤香里	●妊婦健診	佐藤春夫 真鍋麻美
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子 阿部尚央	黒田令子 阿部尚央	●手術	黒田令子 阿部尚央	黒田令子 阿部尚央
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	/	阿部由直 (午後)	/	/	/
麻酔科		●手術	工藤明	●手術	工藤明	●手術

※学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

## 【市民講座】摂食・嚥下療法について

先般の大幅な医療保険制度の改定により、残念ながらリハビリテーション医療では、病院のみならず患者様にも痛みを伴う結果となってしまいました。

このように厳しい環境の中で、摂食・嚥下療法に関しては、大幅に強化された改定となりました。これは、時代が点滴や胃瘻を中心とした延命的な医療に止めず、患者様の生活の質を十分に考慮した医療の提供が必要になってきていることを物語っています。

嚥下障害??と言われてもピンこない方も多いのではないのでしょうか? 難しいことはなく、水分や食物が飲み込めなくなったり、誤って気管や肺に流れ込んでしまう“食べることの障害”なのです。しかし、非常に怖い障害で、抵抗力が低下しているときに食物が誤って肺に達すると、誤嚥性肺炎を引き起こす可能性があります(高齢者の死因の1位に挙げられている肺炎の30%以上で、誤嚥性肺炎が関与しているとも言われています。)。摂食障害とは? 食べ物をうまく口に運べなかったり、異食・拒食・過食など認知や動作に関係のあるもので、両者を合わせたものが摂食・嚥下障害と言われているものです。

原因疾患としては、脳卒中を筆頭に中枢神経系疾

患が多くを占め、その他内臓疾患や加齢等も挙げられています。

摂食・嚥下障害は、一見ではとても分かりにくい障害です。摂食・嚥下障害を疑う症状

として、①むせ、②咳(食後・夜間は特に注意)、③痰の量が増える・性状が変わる、④咽頭違和感・食物残留感、⑤声質の変化(痰がからんだような声)、⑥食欲低下、⑦食事内容の変化(パサパサしたもの、汁を飲まない等)、⑧食べ方の変化(飲み込む時に上を向く、汁で流し込む等)、⑨食事時間の変化、⑩食事中・後に疲れる、等があります。

治療には専門的手技が必要な方が多いですが、介助の仕方や食べ物を変えるだけで対応できる患者様も少なからずいらっしゃいます。気になる方は一度耳鼻咽喉科を受診されることをお勧めいたします。

言語聴覚士 山田 大介



## 中学生の職場見学学習への対応（弘前市立一中）

10月6日（金）、「総合的な学習」の一環として当院を職場見学に選んだ中学生11名。かわいらしくきらきらした瞳がとても印象的でした。

東2病棟には3名の中学生が見学に来ました。3人とも「こんにちは！」と車椅子の患者様や、松葉杖の患者様に明るく挨拶していました。一瞬、戸惑いながらも孫のような子供たちに思わず“にっこり”の患者様でした。挨拶は、とても気持ちの良いコミュニケーションだということを感じました。

意見交換会では、「なぜ看護師になろうと思ったのです

か？」との質問に、久しぶりにこの子達よりももっと小さいときに「看護師になりたい」と思ったことを懐かしく感じました。今の自分は、そのとき憧れた看護師になっているのだろうか？優しい看護師になっているのだろうか？改めて考える機会になりました。

中学1年生の皆さんが、今ここで感じた様々なことを将来少しでも活かしていただければ嬉しく思います。

東2病棟 副看護師長 澤田裕美子



### 【職場紹介】 栄養管理室



栄養管理室は、栄養士3名、調理師7名、その他職員12名（下処理・調乳・食器洗浄）の総勢22名で入院中の患者様の食事をお作りしています。

最近の病院食は、食事療法というだけではなく、栄養療法として多様性を帯びてきています。当院では、10月より「NST」（栄養サポートチーム）を設立しました。活動内容は、例えば、糖尿病の患者様用（血糖値の上昇を緩慢に）や、手

術前後の患者様用（免疫力を高める）、胃ろう用（逆流を防ぎ短時間で注入可能）など積極的な栄養法の選択の提案もその一つです。医師・看護・薬剤・検査・リハビリ・栄養などがチームとなって、「患者様が一日でも早く回復されますように」と職員が連携して治療に当たっています。また、食の関わりとして、平成7年からの温冷配膳車の導入や、夕食時間を18時に変更、選択メニュー（例：焼き魚 or コロッケなど）の導入により改善に努めています。最近では、入院中の患者様に少しでも家庭の雰囲気を感じていただくこと、折々に“メッセージカード”を付けるなど工夫をしています。

これからも患者様のために頑張っていきたいと思っています。  
栄養管理室長 篠島 良介

### 【ふるさと紹介】 山口県防府市

以前、新しい職員紹介の出身欄には愛知県安城市と記入しましたが、実は育ちは愛知県で、本当の生まれ故郷は「山口県防府市」というところです。しばらく前に実家が山口に戻って以来、出身は山口県と名乗る方が落ち着く気がしています。

山口県と青森県は、本州の端と端なので、皆さんは全然なじみがないと思います。思い浮かべるものも下関の河豚が出てくれば良い方だと思いますが、行ってみれば意外と観光スポットのある土地で、中でもお勧めなのは“秋吉台・秋芳洞”です。

秋吉台は、カルスト台地という石灰岩でできた土地で、どこぼこの草原に岩が無数に突き出していて、浮世離れた雰囲気を持っています。秋芳洞は、秋吉台の地下に広がる大鍾乳洞で、何と全長10kmもあります。観光用に一時間位で回れるコースがあり、幻想的な鍾乳洞の中を探検することができます。秋吉台は、日本最大の

大理石の産地でもあり、お土産には大理石でできた様々な工芸品があります。

また、歴史上の人物では、幕末から明治にかけて活躍した人物（伊藤博文、木戸孝允、高杉晋作など）も多く、歴史好きの方にはたまらない魅力があると思います。あと、俳句で有名な種田山頭火は、山口県防府市出身で、ゆかりの土地が観光スポットになっています。

山口～青森直通的飛行機は、残念ながら飛んでいませんが、近辺に立ち寄ることがありましたら是非寄って見て下さい。美味しい河豚が待っています。

臨床研修医 楠木 将人



（防府天満宮）

### 【今月の川柳】

※ 掲載した作品は、広報誌編集委員会で選出したものです。

退院へ カルテも笑う 秋の空  
ゆっくりと歩く 大地を噛むように

★ 【川柳募集】

あなたの川柳をお待ちしています。